

# 清らかな碧水の心を育てるために

学ぶ心  
鍛う心  
磨く心

平成22年 3月12日発行 第7号  
阿蘇市立碧水小学校 文責 麻生廣文  
1面 一年間のお礼 県の視察訪問  
地域素材の教材化(伸二郎と漱石)  
2面 3月5日今年最後の授業参観  
3, 4月行事予定表

# 碧水だより

素晴らしい一年間のしめくくりの時期を迎えて 感動・感謝・感激の1年



6年生ご卒業！  
おめでとうございます

楽しかった修学旅行の集合写真

一年間のお礼に代えて  
一年が過ぎ去るの頃は、一年間の思い出を振り返り、感謝の気持ちを込めてお礼を申し上げます。今年度は、県視察訪問や授業参観、行事予定表など、一年間の活動を振り返ることができました。また、地域素材の教材化にも取り組んでまいりました。来年は、さらなる発展を期してまいります。ご声援を賜いますようお願い申し上げます。

一年間のお礼に代えて

放課後子ども教室は、三月八日の竹とんぼづくりやお話アツプルの会の読み聞かせで閉講式を迎えました。大変素晴らしい活動の一年間でした。コーディネーターの高宮さんはじめ関係者の皆様、本当にありがとうございました。  
ところ、二月二十六日(金)県の社会教育課の視察がありました。阿蘇教育事務所二名、阿蘇市教育委員会三名が来校し、活動の様子を参観視察いたしました。その後、校長室で古閑先生が一年間の活動を報告しました。本校の取組の充実ぶりに関心されていました。



校長室で本校の放課後子ども教室の概要を古閑先生が説明しました。向こう向きで挨拶しているのは、小野賢志社会教育課長。

熊本県教育庁社会教育課長  
本校の放課後子ども教室を視察



碧水小学校写真(校門から)



校長室にある蔵原伸二郎の詩のコピーです。蔵原伸二郎の詩を棟方志功が版画にしています。下に詩の全文を掲載しました。題は「故郷の山」。阿蘇黒川の風景が描かれています。

校区の偉人(蔵原伸二郎) 詩人(一八九九〜一九六五)阿蘇市西町出身。本名惟賢(これたか)。詩集「猫のふる風景」「戦闘機」「天日の子ら」「乾いた道」など出版。第六詩集「岩魚」で読父文学賞を受賞する。  
父惟暁・母いく(北里柴三郎の妹・惟郭は衆議院議員。従兄弟に評論家の蔵原惟人がいる。蔵原一族と称され、親類に文化人が多い。西町に記念碑があり、この写真の詩が刻まれている。故郷の阿蘇を謳ったものである。版画家の棟方志功とも親交が深かったことが分かる。(出典ウィキペディア)西町には、「くらはら記念館」があり親族の惟祖氏の碑がある。

故郷の山 蔵原伸二郎  
わが故郷は荒涼たるかな  
累々として火山岩のみ  
黒く光り肌寒くして  
高原の陽は影もなし  
山間の小駅に人影もなし  
祖先の墓に参らんと  
ひとりの墓に参らんと  
風は荒野をゆく  
これぞき荒野をゆく  
わが誕生の黒川村か  
重なり重なり丘陵  
波のち怒れるあたり  
あうち怒れるあたり  
鳥の低く飛び去るあたり  
噴煙たかく飛び去るあたり  
大阿蘇にけり  
神さびにけり

募集(お知らせ下さい)  
教材化できる地域素材・人材



地域素材の教材化について  
坊中キャンプ場に、夏目漱石関連の石碑がいくつもあります。写真上の石碑は、「灰に濡れて立つや薄と秋の中」「行けど萩ゆけどすゝきの原」「立つ秋の大空」という短歌も残されています。下の石碑は、小説「二百十日」の文学碑です。善五郎谷で遭難した場面が印象的に描かれています。草がなくなってもどこへどう続いているのか見極めのつくものではない。草をかぶれば猶更である。似た内容が前述の俳句にしたため

碧水小学校では、校区にある文化財や史跡、名所などの地域素材を掘り起こし、教材化し、主に社会科や総合的な学習の時間、放課後子ども教室等で、地域人材と合わせて授業に活用しています。これまでも田園空間、西蔵殿寺、霜宮神社、阿蘇駅、踊山神社、高菜漬け物工場、草原や牧野、伝統芸能などいろいろな地域素材をもとにした授業を進めてきました。次年度は校内の地域素材マップもさらに充実します。

地域素材の教材化とは・・・紹介した作品のように、詩や俳句の勉強の時に、教科書の作品だけでなく地域に関係する作品を取り上げると、児童が国語で付けたい学力を身に付けながら、地域に興味を持ったり、地域への愛着を育てたりできます。このように地域にある作品や遺跡、伝統芸能など、ジャンルや形を問わない地域素材を教材にすることです。

